

高野町長賞



安全に暮らすために

学校法人 高野山学園

高野山高等学校三年 木村 観音

私達は日頃から、物を買う時に消費税を払っています。しかし私は、納められた多くの税金が、どのように使われているのか、考えたことがありませんでした。

私の家の横に、昭和時代に使われていた、木製の電柱がありました。幼い頃は、役場のスピーカーがついていた記憶があるのですが、現在は新しいものに取り替えられ、電柱だけが残っていました。ある時、母が電柱の下の落ち葉を掃除すると、根元が劣化し、押すとぐらぐらしていて、今にも倒れそうでした。触れていなくても柱が傾き、もし地震や台風が来てしまったら、すぐに倒れてしまう可能性があるほど危険な状態でした。気付いた母が役場に連絡すると、その日のうちに何度も確認に来て下さり、応急処置をして下さいました。そして翌日には、土木工事の作業員さんが、柱を撤去して下さいました。この出来事があったから、私達が安全に暮らせているのは、税金のおかげだと感じるようになりました。

よくよく考えてみると、医療費の助成や学費の助成など、今回の柱の撤去に限らず、多くの面で税金に助けられ、生活していました。今まで、消費税が上がっていくことしか感じられなかったため、税金のことをあまり考えていませんでしたが、柱を撤去して頂いて、税金を納めることと税金自体の大切さに気付くことができました。

しかし、お坊さんは税金を納めなくて良いという話を聞いたことがありません。本当にお坊さんは税金を納めていないのでしょうか。

私の家は宗教法人の寺院です。確かに収支の計算をしている母からは何も聞いたことはありません。そこで、宗教法人の税金について調べてみると、お坊さんが税を納めなくて良いのではなく、その宗教にしかできない宗教活動については非課税であり、お坊さんはお寺に勤務して給料をもらっている立場なので、他の職業の人と同じように税金を納めなければいけないということでした。なので、「坊主丸儲け」ということわざのように、税金を納めなくて良いのではなく、お坊さんも労働者として、税金は納めています。

私は、家の横の古い電柱をきっかけに、税金について考えることができ、税金の大切さを知ることができました。国民全員が税を納めているおかげで、今、私達は安全に生活できています。私は、これからも学生の間は税金を利用させてもらうばかりですが、社会人になっても税金の大切さを忘れず、納

税していきたいと思います。そして、その税金は、多くの人が安心して安全に暮らせるように、役立ててもらいたいです。